

法やきまりの理解を深める

関連する内容項目：4－（1）

法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。（解説p.54）

事例

場面1 音楽の授業で「著作権法」に触れる場合

著作権法という著作者の権利とその保護を目的とする法律を理解するとともに、自分の利害得失のみに固執せず、社会をよりよくしようとする気持ちなどから考えるように指導することが大切です。

例示



この曲、素敵だね。家でも聴きたいから、このCDをコピーしてもらっていい？



いいよ、すぐコピーするね。

ダメ ダメ！！



私たちが、聴いたり演奏したりしている音楽には著作権があり、その権利は曲をつくった人のものです。（会社等に譲渡が可能）著作権とは知的財産権の一つで、知的な創作活動によって、何かをつくり出した人に対して付与され、他人に無断で利用されない権利です。

・次のような場合は、著作権者に著作権使用料が支払われます。

- ・他の人がつくった楽曲を、許可を得てコンサートで演奏する。
- ・CDやDVDを正規に購入したり、公式サイトで音楽をダウンロードしたりする。

・次のようなことをすると、著作権者に著作権使用料が支払われません。

- ・楽譜やCDを無断でコピーする。
- ・楽譜をインターネットを使って無断で配信する。

どうしてこのような法律があると思いますか。

著作権法は著作者の権利を守るためにあります。例えば、CDをコピーして不特定多数の人に渡すことは違法ですが、レンタルCDを個人で楽しむ目的で自宅でコピーすることは認められています。正しい知識を身に付けて、音楽を楽しみましょう。

【指導上の留意点】

- ・生徒の興味が深い音楽分野等においては、著作権法についてきちんと指導しましょう。
- ・文化庁のホームページ（<http://www.bunka.go.jp/chosakuken/index.html>）等で、著作権の詳細を確認した上で指導しましょう。

中学生になると、法やきまりについてその意義を一層理解することができるようになりますが、一方で、法やきまりを自分たちを拘束するものとして反発することも考えられます。きまりは自分たちの生活と権利を守るためにあり、それを遵守することで、秩序と規律のある社会の実現につながるということを理解させることが大切です。

本校には、先ほど説明したような服装に関するきまりがあります。しっかり守りましょう！



(小声で) 学校のきまりは細かすぎて窮屈なんだよな。もう少し緩くしてくれてもいいのになあ。

きまりはいい誰のためにあるのでしょうか。きまりについては、ただ従えばいいという訳ではなく、その意味を理解し、進んで守ることが重要です。皆さんは、ドレスコードを知っていますか？

ドレスコード（服装規定）

社会の様々な場所と機会、行事や催し物などにおいて、ふさわしいとされる服装のこと。周囲への配慮から始まったエチケットである。

●パーティーや一部のレストランでのドレスコード

男性はスーツ、女性はワンピースなど、それぞれのレストランによって規定があり、また国によっても違いがあります。場違いな服装は、他の方のおしゃれを台無しにして、その場の雰囲気や壊してしまう可能性があります。ドレスコードは、レストランやパーティーでの大切なマナーの一つです。



場にふさわしい服装を心掛けることで、より積極的な活動ができ、場の雰囲気が明るくなったりと言われると思います。きまりを守ることは、自分にとっても周囲の人々にとってもプラスになると言えます。

【指導上の留意点】

- ・きまりを守るといふ一人一人の行動は、学校だけでなく、社会のルールを守ることにつながっていることを実感できるようにします。
 - ・きまりの意味を十分に理解させた上で、自分や集団のためにきまりを進んで守ろうとする態度を育成することが大切です。
- ★保護者や地域の方へのアンケートを活用し、生徒に対する教師や保護者・地域の方々へのきまりに関する願いを伝えます。

「心のノート」との関連

「情報モラル育成資料集」との関連

「学業指導の充実に向けて」との関連

「縛られたくないのはみんな同じ」(pp. 92-95)

「ルールやマナーを守る」(pp. 28-31)

「規範意識の高い学級づくり」(pp. 12-15)

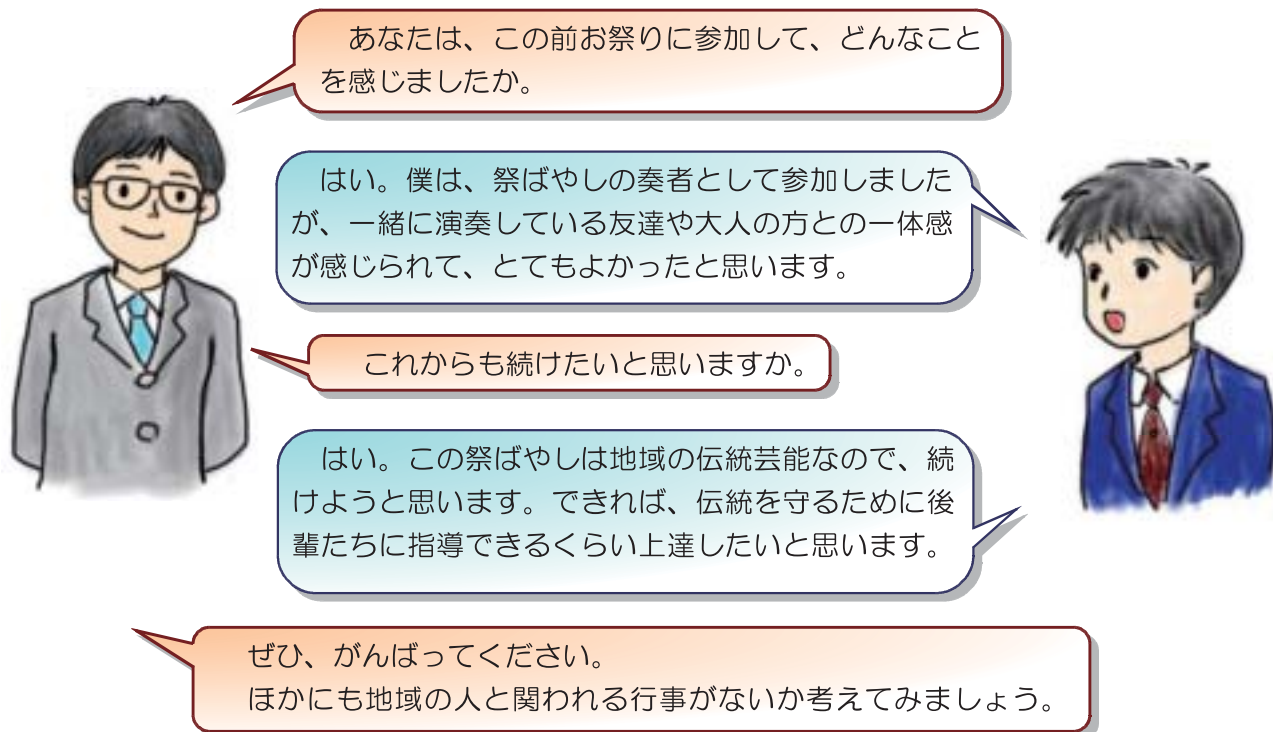
関連する内容項目

- 4-(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。(解説p.55)
- 4-(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。(解説p.61)

事例

場面1 総合的な学習の時間 「地域の伝統行事」に関する指導

郷土によって育まれてきた伝統と文化に触れ、体験することを通して、郷土を愛し大切にすることを育むことが重要です。また、郷土をつくりあげてきた先人や高齢者に対する尊敬と感謝の念を深め、自らも郷土の発展に努めるよう指導することが大切です。



地域には、「祭りなど伝統行事の継承」、「高齢者との交流」、「地域の運動会への参加」など、地域の方々と関わりを持てる機会がたくさんあります。それらに積極的に参加するよう指導し、地域社会の一員としての自覚を高められるようにしましょう。

【指導上の留意点】

- ・実際に行われている地域の活動を紹介したり、広報紙を活用したりすることで、伝統文化を身近に感じさせることが大切です。
- ・地域社会の一員としての自覚を持たせると同時に、中学生として何ができるかを考えさせましょう。
- ★地域について調べる際には、地域の方に直接インタビューするなど、地域を身近に感じる活動を取り入れましょう。

場面 2

地域で行うボランティア活動の事前指導の場面

写真をもとにした話し合いを通して、誰もが安心して生活できる社会をつくる一員であることを自覚させます。奉仕活動やボランティア活動に対する関心を高めさせることで、地域社会において、互いに助け合おうとする意欲を育てます。



昨日は地域のお祭りでしたが、登校するときにお祭り広場や近くの道路にごみは落ちていませんか。

そういえば、ごみはほとんどありませんでした。

この写真は、あるお祭りの翌朝6時頃に撮ったものです。地域の方が、お祭りでごみを出たごみを拾い、まとめているところです。活動している地域の方は、どのような思いでこのような活動をしているのでしょうか。



自分たちの住む町をきれいにし、みんなに気持ちよく生活してほしいという思いから、このような活動をしていると思います。

見えないところで、多くの方が地域のために活動しているのですね。



地域社会の一員として、私たちにどのような活動ができるでしょうか。

○清掃活動、廃品回収

- ・毎月第1日曜日の早朝に、ごみ拾い活動をしている地域があります。
- ・これらの活動に中学生が参加することで、地域が活性化します。

○災害時のボランティア活動

- ・災害時には、中学生の働きや笑顔が、地域の大きな力となります。

【指導上の留意点】

- ・中学生も社会の一員としての自覚を持って、奉仕活動やボランティア活動に積極的に参加できるように指導することが大切です。
 - ・行事のときだけでなく、日頃から地域の方々とのよい関係づくりに努めるよう指導しましょう。
- ★地域の奉仕活動に積極的に参加するよう、学校だより等で家庭に啓発することが大切です。

「心のノート」との関連

「自分だけがよければいい…そんな人が多くなったと思いませんか」(pp. 96-99)

「ここが私のふるさと」(pp. 120-123)

「水と泥にまみれた町で—水害救援活動への参加から—」(pp. 150-152)

関連する内容項目：4－（4）

自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。（解説p.57）

事例

場面1 第1学年音楽 歌唱の授業（合唱コンクールへの練習を含む）

この時期の生徒は、様々な集団の中で互いに深く関わり合って相互理解を深める反面、自己の思いを先行させるあまり、集団の他のメンバーとトラブルになることがあります。歌唱の活動等を通して各人の役割と責任を自覚させ、一人一人が自分の責任を果たすことの大切さを体験を通して学ばせることが重要です。

【練習への取組に温度差があり、学級の一体感が感じられない場面で】



みんな一人一人とてもいい声になってきていますが、今日の歌声は、何かが足りないように感じました。皆さんは、どう感じましたか。

みんなばらばらで、なかなかきれいな響きになりません。声をしっかり出さない人がいるからだと思います。



みんなの気持ちが一つになったとき、初めて人を感動させる合唱になると思います。だから一人でも欠けると力が発揮できないですね。パート同士でまとまって、他のパートと合わせたり、支え合ったりして、それぞれの役割を果たすようにしてみましょう。

【生徒に言葉を掛けるポイント】

○生徒の少しの変化に気づき、大いに賞賛しましょう。

「ソプラノはみんなですべて協力して取り組んだ練習の成果が表れて、一体感が出てきましたね。」

○ピアノ伴奏や指揮者も、重要な役割を持つことを忘れずに、言葉を掛けましょう。

「歌う人の思いを引き出すように工夫していますね。その責任感は素晴らしいと思います。」

○変声期の生徒や音楽の苦手な生徒へは、次のような言葉を掛けましょう。

「高い声が出なくて、音程が取りにくいみたいですね。パートリーダーの近くで歌うと安心して歌えます。パートのみんなに協力してもらいながら、頑張りましょう。」

【指導上の留意点】

- 全体の響きを意識しながら歌う中で、学級全体の連帯感を醸成することが大切です。
- 集団の一員として個人がしっかりと役割を果たせば、大きな力が発揮できることに気付かせることが大切です。
- 合唱コンクールなど、成果を発表する場を与えることが大切です。人前で発表し賞賛されることが、自信になると同時に達成感にもつながり、集団への帰属意識が高くなります。

場面2 運動会（体育祭）等での指導

学校行事など様々な集団活動を通して、集団の意義について理解させます。その際、互いに人間関係を大切にするとともに、励まし合うという協力関係をつくりあげていくことが大切です。

例えば運動会では

運動会の練習に向けて

- 運動会の意義について意識させていきます。
- 個人やクラスの目標を決めて意識を高めていきます。
- 団体種目などで、他学年と協力して活動するための留意点について考えさせます。

練習の過程

- 個人対個人のトラブルも、学級の問題として考えるように指導します。
- 「〇〇さんの立場になって考えてみよう。」などと問い掛けて、生徒自身に考えさせ、気付かせ、行動させてみましょう。
- 各自が責任を持って役割を果たすことの大切さを自覚させます。

運動会を終えて

- 勝敗だけにこだわることなく、役割をきちんと果たせたことや練習の過程の頑張りを大いに賞賛しましょう。
- 生徒たちに、様々な集団生活についての役割を振り返らせましょう。

勝敗より、みんなが自分の役割を果たしながら、一つにまとまったことが、素晴らしいと思います。
みんなはこの運動会で、どんなことを感じましたか。

みんなで一致団結して、
全力で頑張ろう！



応援しすぎて声がかれたけれど、クラスのみんなと気持ちが一つになって最高でした。このクラスで、本当によかったと思います。

初めはみんなと意見がぶつかってばかりだったけれど、何度も話し合っているうちに分かり合えてきました。相手の立場に立って考えることが、団結につながると思いました。

【指導上の留意点】

- 生徒同士の励まし合いや助け合いにつながるような教師の働き掛けが大切です。
 - それぞれの集団活動を通して、一人一人がなくてはならない大切な存在であることに重点を置いて指導していきましょう。
- ★保護者や地域の方々に賞賛されることは生徒の励みになります。学校だよりや学級だよりなどで、練習の様子や事後の感想等を家庭や地域に広く知らせることが大切です。

「心のノート」との関連

「集団そして一人一人が輝くために」(pp. 104-107)

「学業指導の充実に向けて」との関連

「体育祭（中・高）」(p. 19)

関連する内容項目：2－(1)

礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動をとる。(解説p.45)

事例

場面 1

英語科 授業の中で外国の礼儀作法に触れる場合

礼儀の基本は、相手に対する敬愛の気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となって初めてその価値が認められます。日本と外国の礼儀作法を扱う場面で、外国の礼儀についての理解を深め、外国の人々にも気持ちよく接することができるよう指導することが大切です。



日本とアメリカの礼儀作法には、どんな違いがあるでしょうか。ALTの先生に聞いてみましょう。



そうなのですか。旅行でアメリカに行くときやアメリカの方と接するときには、気を付けたいと思います。



食事のマナーで言えば、韓国では食器を手を持つことはマナー違反となります。このように、外国にもそれぞれの国に応じた礼儀作法があり、その違いを理解することは、外国の人々と気持ちよく接するために大切なことです。

ところで、時と場合に応じた言動以外に、礼儀にはもう一つとても重要なことがあります。それは、相手を敬う心です。

礼儀の基本は、相手の人格を認め、敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体になってはじめて意味があるのです。

そのことを忘れないようにしましょう。



日本では、麺類をすするとききの音など食事中の音については比較的寛大ですが、私の国では、食事中の音はマナー違反です。例えばスープを飲むときもできるだけ音を立てないように飲みます。

【指導上の留意点】

- ・時と場合に応じた適切な言動をとるためには、人間尊重の精神に基づき、相手に対して敬愛の気持ちを持って接することの大切さを指導しましょう。
- ・国際化の進展に伴い外国の人々に接する機会が多くなった今日、他国の礼儀についても理解を深め、外国の人々と気持ちよく交流ができるよう指導することが大切です。

職場体験学習に向けて、具体的な場面を想定し、「自分はどのような行動をとったらよいのか。」
「どのような言葉遣いをしたらよいのか。」などを意識させながら、自ら考え判断し適切に行動
できるよう指導することが大切です。その際、形だけにとらわれることなく、相手を大切に思う
気持ちが重要であることに気付かせましょう。



それぞれの職種にふさわしい言動とはどのようなことか、
考えてみましょう。

< 飲食店 >

- 接客の際に大切なことは・・・
- 明るくさわやかなあいさつをしましょう。
- 身だしなみにも気を配りましょう。(爪、髪型など)

< 幼稚園や保育所等 >

- 園児との接し方は・・・
- 園児の手本となるような行動をとりましょう。
- 園児の目線に合わせて会話をしましょう。



このように、職種によって注意すべき点が異なります。職場体験学習
では、自分が体験する職種によって、どのような言動をとるべきか考え
ながら、活動しましょう。

また、人と接する際には、時と場合に応じた適切な言動など形を整え
ることと同時に、とても大切なことがあります。それは、何だと思いま
すか。

このような問い掛けを通して、接し方の技能だけでなく相手を大切に思う気持ちの重要性に気付
かせましょう。

【指導上の留意点】

- 職場体験学習は、社会人から、仕事に対する姿勢や人との接し方を学習できる貴重な機会
です。その場に応じたコミュニケーションの取り方やマナーについても考える機会となる
よう指導しましょう。
- ★あいさつは、それぞれの家庭と地域をつなぎます。近所の人に対しても、気持ちのよいあ
いさつができるように、家庭への啓発を行いましょう。

「心のノート」との関連

「礼儀知らずは恥知らず？」(pp. 44-47)

「ルール・マナー教材集」との関連

「地域との連携は『あいさつ』から始める」(p. 13)

自他の生命を尊重する

関連する内容項目：3－(1)

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。(解説p.51)

事例

場面 1

第3学年理科 「生命の連続性」の単元での授業

本単元では、生物の生殖や遺伝の学習を通して、生命の連続性について学びます。その際、自分が両親や祖父母、さらにその祖先から続く長い歴史の中で、それぞれの形質を受け継ぎながら限りある命を授かり、唯一無二の存在として生きている実感を持たせる指導が大切です。



皆さんの御両親は2人ですが、2世代前のおじいちゃんとおばあちゃんは何人になりますか？

4人です。

では、3世代前のひいおじいちゃんといいおばあちゃんは全部で何人いますか。

8人です。



このようにして10世代前までさかのぼると、下の図のようになります。
この数を見て、どんなことを感じますか。

数がとても多くて、びっくりしました。
たくさんの命がつながって今の自分がいることを感じました。

世代前	人数	累計数	世代前	人数	累計数
1	2	2	6	64	126
2	4	6	7	128	254
3	8	14	8	256	510
4	16	30	9	512	1022
5	32	62	10	1024	2046

ここでは、単なる人数の計算ではなく、とても多くの祖先の命が、自分の命につながっていることや、その中の一人でも欠けていたら、自分自身が存在しないことに気付かせます。

【指導上の留意点】

- ・多くの祖先の命が、今の自分につながっていることを実感できるように指導しましょう。
- ・受け継いだ命を次の世代につなげるためにも、自分自身を大切にするように指導しましょう。

場面 2

自転車の乗り方について指導する場面

中学生の時期は、比較的健康的に毎日が過ごせる場合が多いこともあり、自己の生命に対する有り難みを感じていない生徒が少なからずいます。生命の有限性と連続性をもち、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身に付けさせることが大切です。

保護者から、「最近、中学生の自転車の乗り方が悪くて危ない。」など、苦情の電話が多くなったこともあり、特に目立つ生徒数名を個別指導することにしました。



皆さんは、最近の自分の自転車の乗り方をどう思いますか。先生から見ると、決して安全とは思えない乗り方をしていると思います。

すみませんでした。部活動の時間に遅れそうだったので、左右をよく確認せずに道路を横断してしまいました。



私も下校のときに友達とおしゃべりがしたくて、並進してしまいました。

本校には、自転車の乗り方に関するきまりがあります。きちんときまりを守って安全な運転を心掛けてください。

でも、そのきまりは何のためにあると思いますか。



僕たちを守るためにあると思います。

そのとおりです。全国では多くの中学生が、登下校中に命を落としています。命は本当にかげがえのないもので、決して皆さん一人のものではありません。御両親を含めた先祖から、ずっとつながってきたものです。

これからも健康でいられることに感謝し、たった一つの命を大切にしてください。



【指導上の留意点】

- ・ 自己の生命の尊さを深く考えさせる指導に加え、他者の生命についても自分と同様に尊重しようとする態度を育てることが大切です。
- ・ 人間の生命はもちろん、人間以外の全ての生命の尊さについても折に触れて指導しましょう。

「心のノート」との関連

「かけがえのない生命」(pp. 71-75)